

## 令和3年度 いこま SDGs アクションネットワーク アドバイザー会議（第2回）

開催日時：令和3年11月22日（月） 13：00～15：00

開催場所：生駒市役所 201 会議室

出席者

（参加者）浦林直子氏、清水綾氏、溝口雅代氏、濱田信吾氏、松田裕貴氏

（事務局）地域活力創生部次長兼 SDGs 推進課長川島、SDGs 未来都市推進係長上野、SDGs 未来都市推進係員藤村

案件

### 議題1 SDGs 推進事業補助金について

事務局から制度及び、アドバイザーによる評価の手順について説明。

事務局から申請事業の説明（防災ゲーム体験会）

濱田氏 来られる方は。

清水氏 40～50 人。

濱田氏 参加者への周知方法は。

清水氏 えんのデイサービス利用者、育児ネット参加者への呼びかけ、広報での周知、各種 SNS

溝口氏 えんも育児ネットも、組織の属性が異なる。多様性を持っている方が共通でできるゲームなのか？

清水氏 もしもの時のことをカードで疑似体験。様々な想定が出てくる。そこでどういったことをするかを考えるゲーム。

浦林氏 少し補足だが、今回のイベントは3団体での実施だが、今回のイベントのベースになっているこれまでのイベントではより多くの団体が加わっていた。これまでのイベントではベルテラスを会場として防災をテーマとしたイベントを実施していた。

コロナ流行等により、イベントを実施できなかった場合の予算の執行はどのように対応されるのか。

事務局 補助対象として採択されていた場合、準備経費は支払うのが妥当と思うが、協議が必要。交付は実績報告を受けてから。

浦林氏 ベルテラスなどの人通りのある会場であれば、イベントの開催を断念しても、パンフレットを配るといった対応が可能。しかし今回の場合は会場がコミュニティセンター。実施できなければ中止せざるを得ない。

コロナによる不確定な要素が多い中で、市も弾力的に対応できないのか。

事務局 市の予算は年度内での区切り。したがって、年度を超えての繰り越しは厳しい。次の年度改めての申請になる。

濱田氏 今後のコロナの状況によって、イベントの実施是非は市も判断するのか。

また、コロナ対策はどんなプロジェクトについても必要。今回の申請事業のタイムスケ

ジュールを見ると、様々な企画が用意されており、参加者の移動が多いように思える。全員濃厚接触者になるため、私の大学のイベントではNGになる。大学では、A,B,Cコースに分けて実施し、接触者を分散させている。

企画内容そのものではなく、コロナ対策の部分ではあるが、検討も大切ではないか。

松田氏 コロナ対応等市の要請に基づく対応により、申請時より経費が増えた場合どのような対応になるのか。

事務局 現段階では予算には余裕がある。変更申請いただいて、妥当な内容だったら対応できる。こちらの要請で対応いただいた場合は変更申請を受けるのが普通。ただ、採択時点で予算上限に達していた場合は融通が利かない。

清水氏 会場の定員の半分以上の人数での使用が施設側のルール。

浦林氏 動線などの工夫はできそう。

清水氏 こまめな消毒、物品の使いまわしをしないなどの点には気を付ける。

濱田氏 大学のイベントは参加者が多い（来場者 500 人規模）ので、感染者が出た場合の影響は大きい。

事務局 今回のイベントは不特定多数になるのか。

清水氏 参加者には後々連絡を取れるようにし、追跡できるようにする。

浦林氏 申請金額にも、コロナ対策関係を積んでもいいのでは

濱田氏 今回の申請事業は手ごたえがあった場合、来年度も実施するのか。

清水氏 えんを中心に防災をテーマとした取り組みをしてきている。続けていくことで浸透していき、参加者も増えていく。

事務局 アドバイスを申請団体にフィードバックしたいと考えている。採点表を用いて採点とコメントをいただきたい。

浦林氏 個人で採点して集計するか、会議全体で総意として採点をするのかどちらか。

事務局 この会議はあくまでも個人の意見をいただく場。条例設置の附属機関ではないため、会議体としての意見をまとめることはできない。したがって、今回はアドバイザーの皆様の主な意見を事務局で箇条書きに市、フィードバックしたい。

浦林氏 補助金は来年もあるか。

事務局 予算要求はしている。

清水氏 今年度申請した団体も、来年度も申請できるのか。

事務局 同一団体の申請は可能だが、同一事業は1度限り。既に実施しているような事業へのプラスアルファのような申請内容であれば、相応のご説明をいただく。えんでは、防災について既に取り組みされているが、今回の形でされるのは初めてか。

清水氏 これまではえんさんの中で実施していた。参加者を募集して実施するのは初めて。

事務局 明確な役割分担などを示した資料はないか。

清水氏 そこまで詳細を詰めきれていない。いこま育児ネットが参加することで、子連れにも対応できるので、いろんな世代に参加いただきたいと考えている。

松田氏 効果をアンケート等で見える化できればいいと思う。

溝口氏 呼び込みが難しそう。  
ベルテラスで実施するのであれば通りすがりの人にも参加してもらえるが、コミュニティセンターの研修室ではそれができない。

清水氏 育児ネットが加わることで、ちょっとした子どものスペースが提供できる。託児のような形で、子育て世代の参加しやすい環境を作る。

#### 事務局から申請事業の説明（IoTトングを活用したゴミ拾いイベントによる環境意識向上事業）

清水氏 ゴミ拾いの結果が分かるのはとても面白い。

松田氏 どこまで作りこめるかはわからないが、現時点ではリアルタイムで比較できるようにしたいと考えている。  
台数の関係で、同時に20台しか運用できないため、待っている人もその時間を楽しめるような仕掛けをしたい。

濱田氏 イベントは1日のみか。

松田氏 検討中。トライアルなどは何回かしたいが人手の確保が難しい。メインイベントは1回。

溝口氏 東生駒でゴミ拾いをしているグループがある。どんなゴミが多いか把握されている。

松田氏 肌感覚でわかっているけどデータ化はこれまでできていない。どこで拾ったのかということも自動でデータ化することで、見えてくることもあると思う。

浦林氏 スマホがゴミの種別を判断するのか。

松田氏 トングでつかんだタイミングで、カメラを通してスマホがゴミの種別を判別し、場所と一緒に記録する。

浦林氏 とても面白い取り組み、誰が考えたのか。

松田氏 学生が提案。本学に学生主体でプロジェクトを考える企画があり、そこで出てきたもの。

溝口氏 拾ったゴミをこみすてに持っていったら。リサイクルにつなげられたらいい。

松田氏 JTに限定した連携ではない。連携先が広がればうれしい。ご紹介いただければありがたい。

清水氏 自治会清掃をしているところも多い。IoTトングを使って自治会同士で競うと面白い。

松田氏 今回イベントとしてするのでインシャルがいるが、システムが出来上がれば、日常のご協力いただける方に使っていただくことも可能。  
カメラは1台1万円。今回のイベントでは大学のスマホで実施。将来的には参加者のスマホを使用してもらうことも可能にしていきたいが、イベントの際は安定性の担保が必要のため、大学で用意するスマホを使用。

濱田氏 どのように参加者を募集するのか。

松田氏 JTのひろ街運動の募集スキームに則る。JTがノウハウを持っているので頼りたい。

濱田氏 学生が積極的に関わっている事業なら、市内の科学好きの子どもなどへ遡及しやすい。そういったところにアプローチできる取組なら教育面でもなお良い。

清水氏 マッピングと画像認識の制度は。

松田氏 スマホに基づくので、マッピングについては問題ない。画像認識については、ご認識の可能性はある。

清水氏 駅前喫煙禁止区域を調査したら面白そう。

松田氏 ごみのなかでもたばこの吸い殻が多い。そういう面でも調査して、いい対策につなげられたら。

事務局 ごみ袋に入れる際にどのように認識するのか。

松田氏 センサーはトングのみ、ごみ袋に入れたときに認識する。

清水氏 ごみ拾いというアナログと、ICT という最先端が交わるのはすごい面白い。

事務局 トライアルでは、普段からごみ拾いをされている団体を対象とする。

清水氏 子どもが意識して行動すると、親の行動も変化する。

事務局 採点表を用いて採点とコメントをいただきたい。

事務局 採点の結果両事業とも 60 点を上回っている。この後、事務局でも審査を行う。

## **議題 2 いこま SDGs アクションネットワーク会員（川上産業）の提案相談について**

**事務局から相談内容について説明。（相談内容は包装材（プチプチ）の製造業者から、リサイクル用の素材集めができないか。というもの）**

濱田氏 生駒市衛生社と一緒に取り組んだり、複合型コミュニティ事業に取り組んでいる自治会に回収してもらうのはどうか。プチプチの認知度は高い。各家庭でとりあえず保管している可能性が高い。

浦林氏 収集したプチプチはコインになるのか。

事務局 コインに限らずプレスの型によって成型は変えられると思う。

清水氏 チロル堂のコインにも使えそう。

清水氏 市内のお店には、牛乳パックや卵パックの回収ボックスがあるが、どこもいっぱい。つまり、買い物の際に回収ごみを持ってくる地盤があるので、そういうところで集めたら上手くいくのでは。持っていくのが面倒くさい場合はプラごみに混ぜてしまう。

濱田氏 郵便局で回収してもらうのはどうか。

溝口氏 家電量販店でも大きいのが出てきそう。

松田氏 大学もよく出る。プラごみとして回収している。

事務局 今回の相談事項としては、回収できる拠点を探したいというもの。

製造者責任の中で、求められることは増えているため、協力はしていきたいが、集めた先の活用方法・出口をどうするかが大事。

溝口氏 もっと大きなものにならないのか。プランターやキョーロなど。

清水氏 子ども向けの砂場遊びグッズなどだったら、市内保育園に配れる。  
おちやせんで販売するなど。

溝口氏 使えるものになってほしい。

清水氏 メダルでも、おちやせんなどで割引に使いえれば。

溝口氏 山麓公園のバーベキューで使える使い捨て食器。

松田氏 防災関連に使えないか。断熱材など。

清水氏 プチプチはそのままでも断熱材として使えるのでは。

濱田氏 プチプチベッドのようなものも。

濱田氏 子ども用の何かにできないか。  
回収はネットワークで協力。

松田氏 川上産業ではペレットに直して、企業で成形する。

清水氏 回収は学校でも出来るのでは。

溝口氏 学校側は嫌がるかも。かさばる。

清水氏 先生の手間を増やさない方法が必要。  
回収ボックスを置くにしても、施設の人に手間がかかると嫌がられる。

溝口氏 ユーカリシステムみたいなものもいい。  
捨てたいものを好きなタイミングで捨てられる。捨てたいものをいつでも勝手に捨てられる仕組み。そのようにいつでも捨てられるようにすれば回収しやすい。

「アライの森」という会社の実施。

大阪市内、奈良市でも実施。

浦林氏 そういった形で実施するには場所と管理する人が必要になる。

清水氏 ボランティアに対して洗浄まで求めるのは荷が重い。

浦林氏 特定の団体にだけお願いするよりは、たくさんの場所を作るためにも、複数の団体をお願いするのも手では。

事務局 混入も気にされている課題。セロテープなどが残っていると使えない。

浦林氏 かぎぐるまにお願いしてみる。一つのことで黙々とできる人がいる。そんなところに事業として依頼してみてもいい。

事務局 ここで頂戴した意見は、来年度の補助申請向け、より具体的な企画を練る際の参考として事業者にお伝えする。

来年度も数件は申請が上がると予想している。

今年度は予算額には達していないが、年度末に向けて、制度としての検討の時間としたので、今回は2次募集をしない。

事務局 今回の審査にあたっては、幸い委員に補足いただけたが、様式上、簡素化しすぎたので、書類のみでの評価が難しかった。そういったところは修正したい。

### **議題3 その他（今後の予定について）**

事務局 次回（次年度の補助制度改善案考案後）の開催時期について。  
現時点では時期未定。1月末か2月ごろ。  
流れとしては、補助金の改善検討を事務局でして、会議に提案する。  
市民向けの行動変容の仕掛けづくりについても議論いただきたい。